

巻 頭 言

本年報も第15号となりました。本学会の生みの親であり、初めからの世話人で本学会のため御尽力下さいました、山形大学の松岡元久先生は、昭和59年3月で御退官となります。先生の今までの御活躍、御骨折りに、とりわけ本学会年報を通して、東北の数学教育の学問的水準をわが国のトップレベルまで高められた御功績に敬意を表するものであります。先生の今後の御活躍と御指導をお願いする次第です。

本年度の数学教育界のメインイベントは何といても、ICMI - 日教教の数学教育国際会議だと思います。本学会関係の先生方も多数参加の上、研究発表もしたことは記憶に新しいことです。その後をうけて、といても国内にはレベルダウンですが、今年の日教教の数学教育論文発表会は、7月19日（金）20日（土）の両日盛岡市の岩手大学教育学部で開催がきまり、今その準備を進めているところです。かえり見ますと、東北地区での論文発表会の開催は、昭和57年の山形での第10回以来二度目ということになります。本学会の会員諸賢の日ごろの御研究の成果を全国の志を同じくする諸学究に御披露するよい機会かと存じます。

第10回数学教育論文発表会要項（論文集）と本学会年報第14号（1983）を比べますと、全く隔世の観があります。数学教育界の進歩の早さを感じます。しかし、変わらないものもあります。それは「よりよい算数数学の授業」をめざす研究だろうと思います。私たちはこの期にあたり、本学会設立の精神をもう一度思い起したいものです。

佐伯卓也（岩手大学教育学部）